



つくば市内で

つくば、ホンモノ!
TSUKUBA, HONMONO!

筑波大学システム情報系情報工学域助教

Simona Vasilache シモナ ヴァシラケさん(45)

ルーマニア生まれ。ポリテクニカ大学でコンピュータサイエンス専攻。ブカレスト交通研究所を経て、筑波大学大学院で博士(工学)取得。現在は筑波大学システム情報系情報工学域の助教としてコンピュータサイエンスを研究。

つくばで輝く
女性研究者

《大学の授業と研究》
コンピュータのソフトウェア開発プロセスを研究。また、筑波大学の外国人向けプログラム「G30」にも参加し、40カ国以上から来日している約100人の留学生にコンピュータを指導している。最初から答えを出さないディスカッション中心の授業を通じ、生まれ育った国の文化や考え方の違いがシステム構築に影響することに気づいた。ソフトウェア開発の背景には各国の文化的側面も大きく作用します。これから研究したい新しいテーマですね。



留学生との交流



家族の写真

交流から生まれる
新たな研究テーマ

《ルーマニアから日本へ》
ルーマニアのポリテクニカ大学でコンピュータサイエンスを専攻。卒業後に大学時代のクラスメイトと結婚して首都ブカレストの交通研究所に勤務。1997年に夫が筑波大学の留学生となったのを機に共に来日し、当初は専業主婦だったが筑波大学大学院に入学し博士号(工学)を取得。その後、AI・データ・システム・ランゲージ・ティーチャーとして小学生に英語を指導する中、

外国人だからこそ気づく日本文化の良さを体験した。「子どもの栄養を考えた日本の学校給食は世界に誇れる素晴らしい制度だと思えます。日ごろのボランティア活動などで保護者との親睦を深めるほか、筑波大学に着任後は学生や留学生との交流も積極的にに行っている。

つくばの暮らし

現在のはつくば市に夫婦と長男・長女の家族4人で暮らす。都内の会社に通勤する夫は「20年前と違い、今はつくばエクスプレスや高速道路のおかげで本場に便利になりました」と話す。自身は大学勤務と2人の子育てで忙しい毎日。「豊かな自然や公園など環境に恵まれ、研究機関の一般公開などもあり、とても魅力的な街だと思います」と笑顔。
週末にはサイクリング、冬にはスキーを楽しむなどそうってアウトドア派の一家は日本の暮らしを満喫している。